

名古屋大学では、教育研究評議会に「研究データ基盤整備部会」を整備し（2019年11月）、その推進に向けて「学術データ基盤整備ワーキンググループ」を組織しました（2021年3月）。東海地域の学術機関による連携のため「研究データエコシステム東海コンソーシアム」を設立しています（2023年12月）。

## 学術データポリシー (2020/10)

名古屋大学学術データポリシー (2020年10月)  
<https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/>

本体 + 解説

**学術データ** (Research Data + Educational Contents)

**ポリシーの責務**  
 名古屋大学の構成員は、学術データを適切に管理し、可能な限り公開し、利活用にする

**大学**の責務  
 名古屋大学は、学術データの管理、公開、利活用を支援する環境を構成員に提供する

## 学術データ基盤整備WG (2021/3~)

名古屋大学における学術データ基盤の要素と担当

研究データ基盤整備部会に設置  
 学術データ基盤のステークホルダーが全学から参画

支援組織と役割

項目	情報基盤センター	情報戦略室	情報環境部
1. 学術データ管理のデータプラットフォームの提供	○	○	○
2. データ基盤システムの利用モデルの提示と普及	○	○	○
3. 共同研究実態とのデータ共有環境の整備	○	○	○
4. 学術データプラットフォームの普及	○	○	○
5. 学術データ管理の推進や行動の支援	○	○	○
6. データ管理計画 (DMP) の動向調査	○	○	○
7. 推進の支援	○	○	○
8. 産学連携	○	○	○
9. 研究推進	○	○	○
10. 図書館	○	○	○
11. 情報推進	○	○	○
12. 医学系	○	○	○
13. 大学IR	○	○	○

## 学術データ基盤整備基本計画 (2021~2023)

ポリシー	施策項目	ビジョン
学術データの管理・公開・利活用の支援環境を提供	1. データプラットフォーム	学術データを大学が提供するデータプラットフォーム上で管理できる
	2. データ管理計画	大学による支援のもと、研究助成機関の求めに沿ったデータ管理計画を作成できる
	3. データリポジトリ	学術データを、本学が提供するデータ公開基盤において公開できる
	4. メタデータ作成	公開する学術データに、国際的な相互運用性を備えたメタデータを付加できる
	5. 利活用促進	学術データを、共同研究や産学連携、アウトリーチ、授業等で利活用できる
	6. 契約、法務	学術データを、利用者との契約のもとで利活用に供することができる
	7. 奨励・実績評価	大学における学術データの管理、公開、利活用の取り組みを評価できる
	8. 規程・実施要項	学術データの学内規程・実施要項が策定され、そのもとでデータ管理・公開・利活用を推進する
	9. 啓発	大学構成員は、学術データを適切に管理し、可能な限りそれを公開し、利活用にする

## ルール・ガイドライン整備チーム (2022~2026)

### AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業

[https://www.nii.ac.jp/creded/nii\\_ac\\_jp\\_creded.html](https://www.nii.ac.jp/creded/nii_ac_jp_creded.html)

研究データガバナンスの構築

共有 (解析、保管、記録、生成、収集、活用、公開)

現状: 研究者/研究Grが設けた基盤 (システム、ルール) で推進  
 今後: 大学が提供する基盤で構成員がRDMを推進

研究データガバナンス  
 研究者が安全かつ効率よく研究し、大学の研究力を高める仕組み

## 研究データエコシステム東海コンソーシアム (2023/12~2026/3)

【目的】 東海地域の学術機関が連携し、研究データエコシステムの普及・利用促進

【会費】 無料 (研究データエコシステム事業で運営)

【支援活動】 支援チームの派遣

- データポリシー策定支援
- FD に向けた講師派遣
- 学内アンケート実施

【交流活動】 情報交換会、セミナー企画

学内体制: リポジトリ, DMP, ポリシー, データ基盤

【会員】 無料 (研究データエコシステム事業で運営)

- 正会員: 大学等の学術機関
- 準会員: 上記機関の部署 (東海地域に限定しません!)

【情報交換会の参加者の意見 (抜粋)】

第1回 東海地区 学術データ基盤セミナー  
 トピック: 行動計画、教材、データアクセス  
 参加機関: 東海地区から18機関

第2回 東海地区 学術データ基盤セミナー  
 トピック: 体制整備、ポリシー、データ基盤  
 参加者: 東海地区から24機関

【情報交換会の参加者の意見 (抜粋)】

- データポリシーを作り上げるには、多大な知識と時間が必要
- ポリシー策定の知識とノウハウの共有は効果的

会員機関の懇談会開催  
 セミナーの開催  
 支援チームの派遣  
 RDM資源の共有  
 成果の全国展開・普及

入会機関を募集中!  
 詳細は、情報連携推進本部Webページまで